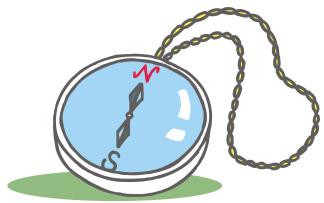


羅針盤

第27号

令和2年(2020年)11月30日(月)



◆ 宇宙飛行士になるための条件

今月の半ば、11月15日の午後7時27分（日本時間では16日の午前9時27分）に、アメリカ合衆国のフロリダ州にあるケネディ宇宙センターより、日本人の宇宙飛行士・野口聰一さんたち4人を乗せたアメリカの民間宇宙船「クルードラゴン」が、打ち上げに成功しました。その後、16日の午後11時過ぎ（日本時間では17日の午後1時過ぎ）には、高度約400kmを周回している国際宇宙センター（ISS）にドッキングし、約2時間後には、無事に入室となりました。野口聰一さんの宇宙滞在は、2005年、2009年～2010年に統いて3回目となります。日本の宇宙飛行士としては、初の民間宇宙船の搭乗となりました。今回の滞在期間は半年程度の予定で、医学実験などに取り組むそうです。さて、皆さん「地球は、青かった。」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。今から59年前の1961年4月12日、世界初の宇宙飛行を終えて、地球に戻ってきた当時ソ連の宇宙飛行士ガガーリンが言った言葉です。それまで、誰も宇宙から地球を見たことがなかった時代に、大気圏から初めて地球を見た感動の言葉です。それから8年後の1969年7月20日には、今度はアメリカ合衆国のアポロ11号が月へ行き、アームストロング船長と操縦士2名が月に着陸して、21時間30分滞在しています。そして、昨年の2月22日には、日本の小惑星探査機「はやぶさ2」が地球から約3億4000万kmのかなたにある小惑星リュウグウへの着陸に成功しています。そして、小惑星リュウグウでのサンプルも取って、生命の成り立ち等を探る取り組みといったような挑戦も始まっています。今回の打ち上げ成功は、これまでの数々の宇宙への挑戦を通して、多くの人々が携わり、知恵を出し合って、何度も何度も失敗を繰り返した経験、そして、そのことを乗り越えてきた人類の弛まぬ努力の結晶として成り立っているものです。宇宙飛行士には、誰でもなれるわけではありません。宇宙への憧れを持っていることだけでなく、宇宙飛行士になりたいという夢を持ち続け、諦めることなく、難しい試験にも合格し、厳しい訓練を積み重ねた先に、「夢」が「現実」のものとして近づいてきます。また、体が健康であることも何よりも大切な条件の一つであるはずです。健康な体をつくりあげていくためには、好き嫌いすることなく、季節の野菜や魚など、何でも美味しく味わって食べること、健康な歯を保ち続けることも大事なことです。実は、虫歯のある人は、宇宙飛行士にはなれないそうです。宇宙空間という気圧の変化のある場所では、たった1本の虫歯といえども、痛みが激しく、我慢することができないそうです。肉も野菜も、甘いものも辛いものも何でも食べる人間にとって、歯はとても大事なものです。しっかりと歯磨きをして、「食欲の秋」を過ごしあしいと思います。宇宙飛行士になりたいという夢を叶えた日本人女性初の宇宙飛行士である向井千秋さんの言葉を最後に紹介しておきます。「夢をもつ人生は、もたない人生の何倍も楽しい。一回しかない人生、いくつになっても挑戦していきたい。」今回の打ち上げ成功も挑戦をし続けた成果の表れです。生徒の皆さんも、「挑戦し続ける人」でいてほしいと思います。

